

中等教育コース(英語教育専攻)、「英語学 1」(旧カリキュラム「英語学 I」および「英語音声学」としても開講)(単位登録者総数 28 名)
担当教員: 秋山正宏 (英語教育講座)

「英語学 1 (2018 年度後期)」: 授業評価アンケート結果とその考察

「英語学 1」は、英語教員免許状取得希望学生にとっての選択必修科目である。授業の目標、到達目標、授業概要についてはウェブ上のシラバスを参照されたい。DP の上では、「... 得意とする分野の専門的知識を修得している(知識・理解)」に対応することが意図された授業である。

この授業は全ての回が担当者自作のワークシートに基づいて進められた。授業全体への導入を行い、かつ前期科目「英語学概論」で扱った内容の内のごく初歩的な事柄の復習を行った第 1, 2 回を除く、毎回の授業時に内容確認シート(出席カードを兼ねる)を用意し、学んだ内容を授業終了時に振り返ってもらった(なお「英語学概論」の復習となる内容は、これらの 2 回以外にも 3 回目、12 回目にも扱ったが、これらの 2 回は内容が重要な英文法上の事項に関わるものであるため内容確認シートを使用した)。内容確認シートは、採点した上で、必要があればコメントおよび質問に対する回答を添えて返却した(最終回授業時のものを除く)。成績評価には、持ち帰りワークシートを使用した。

最終授業時に行った授業評価アンケートの結果は以下の通りである(回答者数 21)。なお各質問項目についての今年度(2018 年度)の結果と併せて、同じ質問項目についての 2017 年度の結果も併記してある。

A あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか。

1. 全く意欲がわかなかった: 1/21
 2. あまり意欲的に取り組まなかった: 1/21
 3. どちらとも言えない: 7/21
 4. やや意欲的に取り組んだ: 10/21
 5. 非常に意欲的に取り組んだ: 2/21
- 平均値: 3.52

2017 年度:

1. 全く意欲がわかなかった: 1/24
2. あまり意欲的に取り組まなかった: 3/24
3. どちらとも言えない: 5/24
4. やや意欲的に取り組んだ: 12/24

5. 非常に意欲的に取り組んだ: 3/24
- 平均値: 3.67

肯定的評価(4 または 5)を行った学生数が 12/21(57%)であり、2017 年度(15/24, 62%)と比べ、やや減少した。一方、否定的評価(1 ないしは 2)をした学生数は 2/21 (9%)であり、2017 年度(4/24, 16%)と比べて減少した。なお平均値は 3.52 であり、2017 年度(3.67)と比べてわずかながら低下した。総合的な評価は難しいところであるが、いずれにせよ、今後もより多くの学生が意欲的に取り組める授業を行うことに努めていきたい。

B この授業で使われた授業資料/ワークシートについてお尋ねします。

B-1 全般的に言って、授業資料/ワークシートの作業の難易度についてどう思いますか。

1. 非常に難しかった: 1/21
 2. やや難しかった: 11/21
 3. ちょうどよい: 8/21
 4. 比較的やさしかった: 0/21
 5. 非常にやさしかった: 1/21
- 平均値: 2.47

2017 年度

1. 非常に難しかった: 0/24
 2. やや難しかった: 15/24
 3. ちょうどよい: 6/24
 4. 比較的やさしかった: 3/24
 5. 非常にやさしかった: 0/24
- 平均値: 2.50

授業資料/ワークシートを作成する授業担当者側としては、「ちょうどよい」あるいは「やや難しい」と感じられることを目論んでいる。この前提で、結果について考えると、3 を選択した学生が 8/21(38%), 2 を選択した学生が 11/21(52%), 2 あるいは 3 を選択した学生は 19/21(90%)であり、ある程度担当者の狙い通りの数値と言える(平均値は 2.47)。2017 年度は、「3」が 6/24 (25%), 「2」が 15/24(62%), 「2 あるいは 3」が 21/24(87%)であり(平均値は 2.50)、大きな変化は見られなかった。次年度以降も、全授業資料/ワークシートを通し

た体系性を維持しながら、部分的な修正・調整を行いつつ授業を展開することに努めたい。

B-2 授業資料/ワークシートを通して学んだ内容は、(難易度は別にして)あなたにとっておもしろい(知的好奇心をくすぐる、喚起する、といった意味で)ものでしたか。

- | | |
|------------------|------|
| 1. 全くおもしろくなかった: | 1/21 |
| 2. あまりおもしろくなかった: | 4/21 |
| 3. どちらともいえない: | 6/21 |
| 4. 比較のおもしろかった: | 5/21 |
| 5. 非常におもしろかった: | 5/21 |
- 平均値: 3.42

2017 年度

- | | |
|------------------|-------|
| 1. 全くおもしろくなかった: | 0/24 |
| 2. あまりおもしろくなかった: | 4/24 |
| 3. どちらともいえない: | 7/24 |
| 4. 比較のおもしろかった: | 12/24 |
| 5. 非常におもしろかった: | 1/24 |
- 平均値: 3.42

肯定的評価をした学生数が 10/21 (43%)であり、過半数割れした上に、2017 年度(13/24, 54%)と比べても低下している。ただし「5」を選択した学生は 5/21(23%)であり、2017 年度(1/24, 4%)に比べて向上している。否定的評価をした学生数が 5/21(23%)であり、こちらは 2017 年度(4/24, 16%)に比べて増加した上に、「1」を選択した学生も 1 名いた。

問 B-2 に肯定的評価をした 10 名の内、9 名(90%)が問 A にも肯定的評価をしている(B-2 で「5」を選択した 5 名は全員が、A でも肯定的評価を選択)。一方問 A で肯定的評価をした 12 名の内、9 名(75%)が問 B-2 でも肯定的評価をしている(A で「5」を選択した 2 名は 2 名とも、B-2 でも「5」を選択)。更に問 A で否定的評価をした 2 名は、どちらも問 B-2 では肯定的評価をしていない。要するに、意欲的に取り組む学生は講義内容にも興味を抱く可能性が高い、あるいは講義内容に興味を抱く学生はそもそも授業に取り組む意欲が高い、というごく当然な結果が生じた訳である。従って、言語の規則性を科学的に考える作業に意欲的に取り組むことが出来るような授業にする工夫を今後も重ねねばならない。ただし学部改組に伴い、この授業を受講する学生も多様化している関係で、これは難しい作業になることが予想される。

問 B-1 で 1 ないしは 2 を選んだ 12 名の内、6 名(50%)が問 B-2 には肯定的評価を行い、逆

に問 B-2 に肯定的評価をした 10 名の内、6 名(60%)が問 B-1 では 1 ないしは 2 を選択している。従って、授業資料/ワークシートに感じる難しさが、内容に対する興味・関心を減退させている訳ではと考えられる。

B-3 この授業で取り上げた以下の具体的な話題の中で、特に興味深いと思うもの、関心を持ったものがあれば括弧の中に「○」を記入して下さい。

第 3 回 時制移動と do による支え:

5/21

第 4 回 補部と付加部の区別: 4/21

第 5 回 文の構造と再帰代名詞、代名詞の意味解釈: 4/21

第 6 回 疑問文と wh 移動: 8/21

第 7, 8 回 関係節: 6/21

第 9, 10 回 wh 移動と移動に課される制約: 6/21

第 11 回 助動詞 Have/Be の統語論:

1/21

第 12 回 助動詞の強形、弱形、縮約形:

5/21

第 13-15 回 不定詞従属節 (同一名詞句削除と主語繰り上げ): 1/21

2017 年度

第 4 回 時制移動と do による支え:

7/24

第 5 回 文の構造と再帰代名詞、代名詞の意味解釈: 5/24

第 6 回 疑問文と wh 移動: 6/24

第 7 回 補部と付加部の区別: 3/24

第 8, 9 回 関係節: 5/24

第 10, 11 回 wh 移動と移動に課される制約: 7/24

第 12 回 助動詞 Have/Be の統語論:

6/24

第 13, 14 回 助動詞の強形、弱形、縮約形:

8/24

第 15 回 派生に課される制約: 11/24

授業で扱った話題についての「人気投票」のようなものを行うことに大きな意味はないかも知れない。ただし、この授業で扱った話題はいずれも中学校における英語教育、英文法教育において避けることの出来ない事柄ばかりであるため、特定の話題についての回の印象度が格段に低い、というような結果は望ましいものではない。従って、例えば今年度

からこの授業で扱うようになった不定詞従属節(昨年度までは3年次後期の「日英語比較論」で扱っていた)の印象度が、最終3回で扱ったにも拘らず低い点は今後検討に値する。助動詞 Have (完了)および Be (進行ほか)について扱った回の印象度も低いようであるが、これは「英語学概論」の復習であるため、止むを得ないのかも知れない(ただし2017年度(6/24)よりも印象度が下がっている)。

また第6-10回に扱った wh 移動、関係節および移動に課される制約についての印象度が今年度も強い、という結果が得られた。これは疑問詞疑問文および関係節の日本人学習者にとっての難しさ、重要さを学生さんたちが強く意識していることの反映であるかも知れない(wh 要素/疑問詞の移動、関係詞およびその移動は、いずれも日本語には少なくとも顕在的な形では存在しない)。

この授業で扱う内容のいくつかについては、カリキュラム改定に伴う英語学・言語学関連の授業数の増加にあわせて新規に関連資料/ワークシートを作成した経緯がある。次年度以降も改善および取捨選択を行っていききたい。

C この授業では、前期開講の「英語学概論」の内容を復習する回がありました(具体的には、第1, 2, 3回および第12回)。その点についてお尋ねします。

C-1 あなたは「英語学概論」を履修済みですか。

- | | |
|--|-------|
| 1. 履修済みである: | 17/21 |
| 2. 履修済みでない(カリキュラムの関係で履修しなくても良い人もこちらにマークして下さい): | 4/21 |

2017年度

- | | |
|--|-------|
| 1. 履修済みである: | 20/24 |
| 2. 履修済みでない(カリキュラムの関係で履修しなくても良い人もこちらにマークして下さい): | 4/20 |

C-2 英語学概論」の復習となった回について、どのように思いますか。例えば、統語論の初歩についての復習なしに、「補部と付加部の区別」の話から具体的な話が始まったら、どうだったか、というようなことを考えてみて下さい。

- | | |
|---------------|---|
| 1. 不必要である: | (全体: 2/21;
「英語学概論」履修者: 2/17; 同未履修者: 0/4) |
| 2. なくとも良い: | (全体 3/21;
「英語学概論」履修者: 1/17; 同未履修者: 1/4) |
| 3. どちらとも言えない: | (全体: 5/21; |

- | | |
|-------------|---|
| 「英語学概論」履修者: | 4/17; 同未履修者: 1/4) |
| 4. あった方がよい: | (全体: 8/21;
「英語学概論」履修者: 7/17; 同未履修者: 1/4) |
| 5. ぜひ必要である: | (全体: 4/21;
「英語学概論」履修者: 3/17; 同未履修者: 1/4) |

2017年度

- | | |
|---------------|-------|
| 1. 不必要である: | 0/24 |
| 2. なくとも良い: | 3/24 |
| 3. どちらとも言えない: | 6/24 |
| 4. あった方がよい: | 11/24 |
| 5. ぜひ必要である: | 3/24 |
| 無回答: | 1/24 |

この授業では、2年生前期科目として開講される「英語学概論」の内容を前提とする内容が展開された。ただし、旧カリキュラムの適用対象となる、あるいはそうでなくても履修計画の関係で「英語学概論」を受講していない学生がいたこともあり、同授業で扱った関連内容を復習する回を4回設けた(第1~3回, 12回)。「英語学概論」を履修済みでない4名の内、2名(50%)がこの間で4ないしは5を選択した。また同科目を履修済みの学生17名の内、10名(58%)がこの間で4ないしは5を選択した。新カリキュラムに完全移行後も、時間配分に注意しつつ、念のため既習内容を扱う回を用意する必要は今後もあるように感じた。

D 内容確認シートについてお尋ねします。残念ながら内容確認シートを使わなかった/使えなかった回もありましたが、内容確認シートは、当該の回に学んだ内容を振り返ったり、理解を深めたりするのに有益だと思えましたか。

- | | |
|-------------------|-------|
| 1. 全く有益には思えなかった: | 1/21 |
| 2. あまり有益には思えなかった: | 0/21 |
| 3. どちらとも言えない: | 5/21 |
| 4. 比較的有益なように思えた: | 12/21 |
| 5. 非常に有益なように思えた: | 3/21 |
| 平均値: | 3.76 |

2017年度

- | | |
|-------------------|-----------------|
| 1. 全く有益には思えなかった: | 0/24 |
| 2. あまり有益には思えなかった: | 1/24 |
| 3. どちらとも言えない: | 5/24 |
| 4. 比較的有益なように思えた: | 13/24 |
| 5. 非常に有益なように思えた: | 4/24 |
| 無回答: | 1/24 |
| 平均値: | 3.87 (無回答1名を除く) |

肯定的評価をした学生が 15/21 (71%), 否定的評価をした学生が 1/21 (4%)であり, 2017年度とほぼ変化はなかった(2017年度は, それぞれ 17/24 (70%)および 1/24(4%)であった)。今年度も内容確認シートの意義については, 比較的高い評価を得たようである。内容確認シートは平常点を算出する上で重要なアイテムでもあり, 次年度以降も改善を加えつつ使用を継続して行きたい。

E あなたは, この授業を通して, 外国語としての英語, あるいはより一般的に人間の言語が持つ規則性に興味・関心が向くようになりましたか。

1. 全くそういった興味・関心が持てなかった: 0/21
 2. あまりそういった興味・関心が持てなかった: 2/21
 3. どちらとも言えない: 5/21
 4. そういった興味・関心をやや持つようになった: 7/21
 5. そういった興味・関心を非常に強く持つようになった: 7/21
- 平均値: 3.90

2017年度

1. 全くそういった興味・関心が持てなかった: 0/24
 2. あまりそういった興味・関心が持てなかった: 1/24
 3. どちらとも言えない: 4/24
 4. そういった興味・関心をやや持つようになった: 13/24
 5. そういった興味・関心を非常に強く持つようになった: 5/24
- 無回答: 1/24
平均値: 3.96 (無回答 1名を除く)

肯定的評価をした学生数が 14/21 (66%)であり, 比較的高い結果が得られたが, 2017年度(18/24, 75%)に比べると数値を下げている。とは言え, ある程度言語の規則性についての関心を掻き立てることが出来たと考えてよいだろう。

問 E で肯定的評価をした 14名の内, 11名(78%)が問 A で, 10名(71%)が問 B-2 で肯定的な評価をしている。問 A あるいは問 B-2 において否定的評価をした一部の学生を問 E では肯定的評価に導くことが出来る内容の授業だったということが出来るのかも知れない。な

お問 A で肯定的評価をした 12名の内 11名(91%), 問 B-2 で肯定的評価をした 10名の内 10名(100%)が問 E で肯定的な評価をしている。こちらはある意味, 自然な結果と言えるのであろう。

F 最後にこの授業全体を振り返って, 何か一言

授業について否定的な評価を書いた学生はいなかった。

まとめ

アンケート結果から判断する限り, 今年度のこの授業は, 受講者の意欲を高めることが出来ているかどうか(問 A), 内容が受講者の知的好奇心を喚起し得るものになっているかどうか(問 B-2), といった点で改善の余地があるものであったと考えられる。ただし, 全体として, 言語の規則性についての興味をかき立てることにはある程度成功しているようである(問 E)。

地域社会を核とした教育と研究のつながりについて

この点を強く意識した授業内容は設定しなかった。もちろん, この授業で扱った内容は, 地球上のどの地域で英語教員になるにせよ重要な事柄であると考えている。その意味では, 地域社会, 我が国, この地球全体を意識した授業内容であったのかも知れない(授業担当者にとって, それはどうでもいいことであるが)。ともあれ, 英語学にせよ, より一般的に言語学にせよ, 愛媛という特定の地域のためだけに存在する研究分野では, もちろんない。また愛媛という特定の地域だけに特化した英語学や言語学というものも, もちろん存在しない。ただし, 学習指導要領等を再度見直して, この授業以外の英語学関連の授業も併せて, 取り扱う内容, 展開の順番等の検討は続けていきたい。

なお愛媛の方言を入り口として, 言語全般や英語の関連する事柄について学ぶ, という道は考えられる訳であるが, これについては, 今回の報告書で取り上げた「英語学 1」ではなく, 3年次前期科目の「英語学 2」において「文法化」を扱う際に, 伊予方言の助動詞ヨルを通して, 進行アスペクトの文法化について簡単に考える回があったことを報告しておく。